

2019年12月27日

日本輸血・細胞治療学会
理事長 松下 正
安全委員会 担当理事 加藤 栄史
輸血用語集タスクフォース委員長 加藤 栄史

常用輸血医学用語の変更について

輸血医学の進歩に伴い常用輸血医学用語に関して齟齬が生じる事から、本学会では随時、輸血常用語の修正を実施することとしている。今回、安全委員会および輸血用語集タスクフォースにて「輸血副作用」関連の用語を検討した結果、下記に示す様に変更を決定しました。本学会としては、下記に示した用語を用いることを推奨する。

1. 「輸血副作用」を「輸血副反応」に変更する。

理由：

- ・ 「副作用」は、目的とした作用以外の作用と定義される（例；薬疹など）。「副反応」は、主要な反応以外の反応と定義され、予想されている事が多い（ワクチン接種部位の腫脹など）。
- ・ 「副作用」は英語で「side effect」、「副反応」は英語で「adverse reaction」と翻訳される。輸血では、adverse reactionの表現で論文が掲載されている。

2. 「溶血性輸血副作用」と「非溶血性輸血副作用」を「溶血性輸血反応」と「非溶血性輸血反応」に変更する。

理由：

- ・ 英語論文で「hemolytic transfusion reaction」、「non-hemolytic transfusion reaction」との記載である事から、日本語は「溶血性輸血反応」、「非溶血性輸血反応」が最適と考える。

【注記】今後、本学会から公表する出版物、本学会学術集会の抄録や発表、本学会学会誌への投稿論文などの記述に関しては、本変更に準じることとしますのでご承知おき下さい。